

4-B-2

子ども・子育て支援の効果的なアクセス方法 －「切れ目のない」支援を目指して－

大城亜水¹⁾内橋一恵²⁾ 伴仲謙欣³⁾

本研究は、長田区の現行の子ども・子育て支援施策と長田区に住む子育て世代のニーズとの間に生じる情報乖離をいかに縮小させ、妊娠中から子どもが就学するまでの「切れ目のない」支援情報を提供できるか、情報の効果的なアクセス方法を検討することである。具体的には、長田区政の情報発信と子育て世代の情報収集（キャッチ）の乖離の実態を把握するべく、双方からヒアリング調査などを行い、長田区の子ども・子育て支援の特有性を浮き彫りにする。そして、長田区の地域特性を活かしながら、「切れ目のない」支援情報の提供について模索したい。

そこで、今回は本研究の進捗状況を2つの方向から報告する。第一に前回報告した内容を基に、改めて長田区の人口減少と少子高齢化の背景を掘り下げる。「長田区計画（2016 - 2020）」によると、長田区の人口は1965（昭和40）年のおよそ21万4千人をピークに減少し続け、2015（平成27）年には約9万8千人となっている。また、長田区の人口比率をみると、65歳以上の割合はおよそ32%、15歳未満の子どもの割合はおよそ10%であり、どちらも全市9区中で最も少子高齢化が進行している。まさに現代日本が直面する人口減少および少子高齢化の縮図が長田区である。そのため、これまでの長田区の子ども・子育て支援に関する取り組みを整理しながら、課題となる点を抽出する。第二に効果的なアクセス方法の試みとして開設予定であるホームページの内容の一部を紹介する。

1) 教育学部こども教育学科 2) 事務局 3) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科